



## きらきら☆いわてっこ 自分のイメージを工夫しながら表現する喜びを味わっている

年明けの4歳児の保育室。様々な素材や用具があり、子どもたちは自分からその環境に関わって遊び始めました。自分なりにイメージするものを作ったり、遊びに必要なものを作ったりといった、これまでの経験の積み重ねが、「今度はこんなふうになりたいな」という意欲を高めます。加えて、子どもたちがじっくり取り組める時間の保障、思いの実現を支えてくれる保育者や友達の存在が、その子らしい感性を引き出し、個性あふれる表現につながっていきます。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

#### 素材を選ぶ

「ねずみさんのベッドにちょうどいい箱ないかな」と作りたいイメージに合わせて素材を選ぶ場合もあれば、「この紙ふわふわしてて気持ちいいな、まるめてみたらひよこみたいに見えるきた」と、素材の性質からイメージがわいてくる場合もあります。

#### 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



#### 友達からの刺激を受けて

お互いの作っているものから、自分にはなかったイメージやアイデアが生まれたりします。



#### “思い”が 技能を育てる

「こんなふうに作りたい！」という強い思いと必要感からハサミなどの操作も自ずと巧みになってきます。



(前略) 教師は、一人一人の幼児が様々な表現する楽しさを大切にするとともに、多様な素材や用具に触れながらイメージやアイデアが生まれるように、環境を整えていく。また、幼児同士で表現を工夫しながら進める姿や、それぞれの表現を友達と認め合い、取り入れたり新たな表現を考えたりすることを楽しむ姿を十分に認め、更なる意欲につなげていくことも大切である。(後略)

# ♪♪ リズムにのって おどっておどって 楽しいな!! (^^♪



同じ曲でも、一人ひとりの感じ方、捉え方は異なります。自由に表現する部分と、皆で呼吸をそろえてポーズする部分等が組み合わさると、自分なりに表現を楽しむことと、一体感を味わうことの往還から、より一層表現する喜びが味わえることでしょう。

お気に入りには、おばあちゃんポーズ!



## 感性と表現に関する領域「表現」 (満1歳以上満3歳児未満)

【内容】(2) 音楽やリズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。

(前略) 音楽やリズムに合わせて体を動かすという経験を通して、子どもは、楽しい気持ちをこうした方法で表現することの喜びを味わう。(中略)

子どもが、自分の思いや体の動きと音楽やリズムのつながりを、心から楽しむ経験を重ねることが重要である。

—保育所保育指針解説 P171 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P215 から抜粋—

## ■ コラム — 体験が豊かになる環境の構成を考える —



子どもたちは、家庭とは異なる環境の中、各施設において様々な環境に関わり得られる豊かな体験を通して、「育みたい資質・能力」を育んでいます。

たとえば、初夏におたまじゃくしを飼育しはじめたことをきっかけに、おたまじゃくしの絵本を読んだり、かえるのダンスを踊ったり、かえるとザリガニのおいかけっこゲームが始まったり。それが運動会の競技にまでつながることもあります。

そんなふうに、子どもの興味・関心から遊びがどんどん広がっていきます。その過程で、保育者はどんな育ちがあったのかを捉え、それを支えることが求められます。より豊かな体験が保障されるよう、丁寧な子ども理解を基に、環境構成をしていくことが大切です。子どもとともに、楽しみながら…。

保育教諭等は、一人でじっくり遊ぶ環境、好きな友達と一緒に遊ぶ環境、友達と共通の目的に向けて協同的な活動を行う環境などを構成し、遊びや活動を通して園児が豊かな園生活が展開できるように指導をしています。(「幼保連携型認定こども園における 園児が心を寄せる環境の構成」 内閣府 文部科学省 厚生労働省 P98 より)

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。